

2023 年度活動報告 松田陽多

【どろん田バレー】

・2022 年に引き続きどろん田バレーボール大会を開催。2022 年はチャレンジナガノの予算や人員があったが、それらがなくなったため、町のイベント補助金を活用しつつ持続可能な形を模索した。川島の皆さんや役場の方のご協力もあり、20 チーム・約 170 名参加と、前年を上回る規模で開催できた。

・なるべく地元負担をかけない、むしろ川島や町内キッチンカーに経済的にメリットをもたらすことも目標の一つに据えた。天候にも恵まれキッチンカーの売上は好調であった。

・参加料とコストのバランスとしては今年度がギリギリであり、今後補助金を頼らず開催するためには参加チームを増やす他ない。広報の仕方によって集客は可能であると思うが、駐車場の確保などの面で課題が残っている。それらを踏まえて次回の開催を検討する。

【チャレンジナガノ】

・長野県が主催するチャレンジナガノに本年も辰野町として参加。テレワーク等の課題でマッチングを希望し、6 社と面談を行ったが、事業化に至るものはなかった。

・2022 年度のチャレンジナガノにてマッチングした株式会社クリーム（ハンドメイドアイテムのオンラインマーケットを運営）と、内閣府関係人口創出・拡大のための対流促進事業補助金を活用し、Creema Craft Caravan を開催した。クリエイターの地方移住をすすめたという課題を持っていたクリームに対し、空き家を使ったマーケットイベントを提案し、〇と編集者主催、岡谷市商工会を巻き込む形で実現した。

・クリエイターで生計を立てている方はオンラインでの販売の方も多く、その場合都心部に居住している必要がないばかりか、材料や作品の保管で倉庫が必要な方もおり、むしろ地方が合っている方も少なくない。クリームではそういった方への地方移住のサービスを模索しており、一方で辰野はこれまでの傾向からも自ら生計を立てられる方との相性がいいということで、マッチングに至った。

・本イベントは実際に地方移住を検討しているクリエイターが空き店舗で出店することで、まちの雰囲気や空き家を体験することをコンセプトにし、最終日には出店者に対する空き家ツアーも実施した。

・辰野会場には県外から約 30 のクリエイターが出店し、特に天候に恵まれた 2 日目は盛況であった。

空き家で街の魅力発信!?4年ぶりの「Creema Craft Caravan」が、長野県岡谷市・辰野町で二拠点同時開催！

© 2023年11月17日

東京ウォーカー（全国版） 長野県のニュース ライフスタイル



【写真】 Creema Craft Caravanが2023年11月18日(土)、19日(日)に開催！

【協力隊募集】

- ・協力隊募集に向け、チラシや JOIN イベントのブースデザインをディレクションと、協力隊検討舎向けツアーの開催をした。問い合わせやブースを訪れる方は比較的多いものの、なかなか採用にはつながっていないと感じている。
- ・1月の JOIN のイベントでは、年度末に近すぎることもあってか、協力隊について相談に来る方でも翌年以降に検討している方が多い。現在、1年を通して何回か移住定住のイベントを銀座ナガノ等で行っているが、今後は（特に募集することがほぼ確定的な枠については）、それらのイベント協力隊の募集を行い、募集を早めていく必要がある。

【宮木泉水 PFI 事業（空き家対策モデル事業）】

- ・宮木泉水にある旧医師住宅を、辰野町と協力し、賃貸住宅に再生する事業を実施した。
- ・鈴木隊員と6月頃より国交省・空き家対策モデル事業に応募し、採択を受け、10月に公民連携でまちづくりを進める法人・株式会社 goodhood を設立した。
- ・役場の方の多大なる協力のもと、辰野町と PFI 契約、事業用建物賃貸借契約を締結し、1月～2月にかけて改修工事を実施、3月にはメディアや関係者への内覧会を実施し、町議・県議・県職員・他市町村職員など約40名にご参加いただいた。
- ・入居者は決定しており、4月から実際に賃貸住宅として運用する。

NEWS

辰野町とまちづくり会社 町有住宅を賃貸物件に

2024年3月21日



辰野町地域おこし協力隊の鈴木雄洋さん(32)が代表を務めるまちづくり会社「good hood (グッドフッド)」(下辰野)が、宮木泉水にある町有の旧医師住宅を、移住検討者向けの賃貸戸建て住宅に改修して運用し始めた。町と連携した事業で、公共施設の整備や運営に民間の資金やノウハウを生かす「PFI」の手法を活用。移住検討者の受け入れ機会の損失の解消や町の維持管理コストの削減が狙いにある。

鈴木さんによると、移住者が移住してすぐに戸建て住宅を購入するのはハードルが高く、多くが賃貸物件を希望しているという。ただ県内にあるのは売買物件ばかりで、賃貸物件は不足している状況。こうした課題の解決に向け、町有の空き住宅の活用を思い付き、昨年10月に同社を設立した。

旧医師住宅は築48年の木造平屋建ての84平方メートル。改修で洋室と和室各2部屋、ダイニングキッチン、洗面脱衣所、浴室を整備した。DIY(ドゥ・イット・ユアセルフ)ができる壁や押し入れもある。既に入居者が決まっており、三重県から町に移住する30歳代の夫婦に4月から貸し出す。